

文献検索結果

1. 国内における生態影響に関する文献

1.1. 今回評価を行った国内情報

今回実施した文献検索において得られた生態影響に関する国内情報のなかで、WHO グローバルアセスメント第7章 124 頁の表 7.1 及び表 7.2 に記載されている調査研究例（以下、グローバルアセス調査研究例）に記載されていない調査研究例として、「カエルの生殖腺異常」（グローバルアセスメント第7章以外の章においても検討されていない項目）に関する2件の文献が得られ、文献評価を実施した。内訳を以下に示した。

仮説の内容	今回の文献検索結果
(1) カエルの生殖腺異常	2件の文献が得られた。

1.2. WHO グローバルアセスメント第7章 表 7.1 及び表 7.2 に記載されている調査研究例に関連した国内情報

WHO グローバルアセスメント第7章 表 7.1 及び表 7.2 に記載されている調査研究例に関連した国内情報として合計 33 件の文献が得られた。内訳を以下に示した。

仮説の内容	今回の文献検索結果
(1) 海産腹足綱動物インポセックス	17件の文献が得られた。
(2) アザラシ生殖機能低下	1件の文献が得られた。
(3) トリ幼胚死亡・水腫・奇形症候群 (GLEMEDS)	3件の文献が得られた。
(4) 集団性水鳥卵殻薄弱	関連文献は得られなかった。
(5) ワニ生殖異常	カメに関する1件の文献が得られた。
(6) レイクトラウトの発生異常と繁殖低下	コイ等に関する2件の文献が得られた。
(7) 魚類のピテロジェニン誘導	7件の文献が得られた。
(8) 魚類の生殖変化	1件の文献が得られた。
(9) カエル四肢奇形	1件の文献が得られた。

なお、今回文献評価を実施した生態影響に関する国内情報及びWHOグローバルアセスメント第7章 表 7.1 及び表 7.2 に記載されている生態影響に関する調査研究例に関連した国内情報として合計 35 件の文献が得られたが、6月4日にJOISを利用して検索された約 15 件の文献に、それらの文献において引用されている関連文献を追加したものである。

2. 国内における人健康影響に関する文献

2.1. 今回評価を行った国内情報

今回実施した文献検索において得られたヒト健康影響に関する国内情報のなかで、グローバルアセス調査研究例に記載されていない調査研究例として、「ヒト生殖器の先天異常」、「受胎能・生殖能への影響」、「小児悪性腫瘍」及び「児童の骨代謝への影響」に関する合計 12 件の文献が得られ、文献評価を実施した。内訳を以下に示した。

仮説の内容	今回の文献検索結果
(1) ヒト生殖器の先天異常 ^{注1)}	4 件の文献が得られた。
(2) ヒト受胎能・生殖能への影響 ^{注2)}	2 件の文献が得られた。
(3) 小児悪性腫瘍 ^{注3)}	1 件の文献が得られた。
(4) 児童の骨代謝への影響 ^{注3)}	5 件の文献が得られた。

^{注1)} グローバルアセスメント第5章において「尿道下裂及び停留精巣」として検討されている項目で「尿道下裂と停留精巣の発生率に関する経時傾向データは、長期的調査研究が欠落していること、そのために、奇形の定義、確認、登録が本質的に違ってしまっている個別データを比較するのが困難であることを考えれば、とりわけ慎重に解釈せねばならないであろう。」との結論が記載されているが、今回の検索でグローバルアセスメントの参考文献に記載されていない国内文献4件が得られたため、確認の目的で文献評価を実施した。

^{注2)} グローバルアセスメント第5章において検討されている項目で「懐妊の遅延と環境汚染物質への高用量曝露との相関性を以上の調査研究は、強く示している。しかし、ヒトの正常な生殖を変え、懐妊までの所要期間を長引かせ得るような一連の複雑な問題が数多く存在する以上、懐妊までの所要期間の変化と内分泌攪乱との相関関係については憶測の域を出ない。また、懐妊までの所要期間は、両配偶者の特性によっても違う。」との結論が記載されているが、今回の検索でグローバルアセスメントの参考文献に記載されていない国内文献2件が得られたため、確認の目的で文献評価を実施した。

^{注3)} グローバルアセスメント第7章以外の章においても検討されていない項目

2.2. WHOグローバルアセスメント第7章 表 7.1 及び表 7.2 に記載されている調査研究例に関連した国内情報

WHOグローバルアセスメント第7章 表 7.1 及び表 7.2 に記載されている調査研究例に関連した国内情報として合計 41 件の文献が得られた。内訳を以下に示した。

仮説の内容	今回の文献検索結果
(1) ヒト子宮内膜症	4 件の文献が得られた。
(2) ヒト神経行動障害	9 件の文献が得られた。
(3) ヒト免疫機能攪乱	13 件の文献が得られた。
(4) ヒト乳がん発生	1 件の文献が得られた。
(5) ヒト精液質・精巣機能の低下	14 件の文献が得られた。

なお、今回文献評価を実施したヒト健康影響に関する国内情報及びWHOグローバルアセスメント第7章 表 7.1 及び表 7.2 に記載されているヒト健康影響に関する調査研究例に関連した国内情報として合計 53 件の文献が得られたが、6月4日にJOISを利用して検索された約 30 件の文献に、それらの文献において引用されている関連文献を追加したものである。

3. 今回評価を行った国内情報

3.1. 国内における生態影響に関する文献

(1) カエルの生殖腺異常

- 1) 染谷稔(2002)内分泌攪乱化学物質の野生生物への影響、環境研究、126, 96-104.
- 2) 高瀬稔(2003)野外両生類の幼生における生殖腺異常発生率についての研究、環境科学総合研究所年報、22, 33-40.

3.2. 国内における人健康影響に関する文献

(1) ヒト生殖器の先天異常

- 1) 倉橋典絵、岸玲子(2003)停留精巣の発症要因に関する疫学研究、日衛雑、57,636-644
- 2) 平原史樹、住吉好雄、鈴木恵子、松本博子、山中美智子、田中政信、本多洋、坂元正一(1999) 本邦における先天異常発生の状況とその推移、日本小児臨床薬理学会雑誌、12,1,64-66
- 3) Sumiyoshi, Yoshio, Fumiki Hirahara and Shouichi Sakamoto(2000)Studies on the frequency of congenital malformations in Japan and Asian countries. Congenital Anomalies, 40, S76-S86.

- 4) Hirahara, F., Y. Sumiyoshi, M. Yamanaka, N. Andoh, K. Suzuki, H. Matsumoto, Y. Tokoro, C. Katoh, T. Ae, M. Kodata, M. Tanaka, H. Kiyokawa, H. Honda and S. Sakamoto(2000) The prevalence of hypospadias in Japan from the analysis of Japan birth defects registry(JAOG), Japanese Teratology Society Abstracts, 19A.

(2) ヒト受胎能・生殖能への影響

- 1) 荒川千賀子、吉永淳、水本賀文、安部正雄(2003) ヒト生殖能の評価手法に関する予備的調査 受胎待ち時間調査法に関する検討、日本公衛雑、50, 5, 414-419.
- 2) Baba, Katsuyuki, Takayasu Nishida, Miki Yoshiike, Shiari Nozawa, Takao Hoshino and Teruaki Iwamoto(2000) Current status of reproductive function in Japanese fertile men: international collaborative project on a study of partners of pregnant women. International Journal of Andrology, 23, Supple. 2, 54-56.

(3) 小児悪性腫瘍

- 1) 岸玲子、片倉洋子、湯浅潤子、三宅浩次(1993) 小児悪性腫瘍と両親の従事する産業および職業の関連 急性リンパ芽球性白血病の症例対照研究、産業医学、35, 515-529.

(4) 児童の骨代謝への影響

- 1) 渡辺伸枝(1999) 4 .大気汚染 1)大気汚染の原因と考えられる有害物質の健康への影響、臨床検査、43, 11, 1297-1305.
- 2) 渡辺伸枝、池田眞悟、大澤誠喜、土屋悦輝、鈴木重任(1996) ディーゼルエンジン排気ガスの曝露は、ラットの成長板の病理学的変化を起こし、骨量を減少させる、東京衛研年報、47, 225-237.
- 3) Hagino, H., K. Yamamoto, R. Teshima, H. Kishimoto and T. Nakamura(1989) The incidence of the proximal femur and the distal radius in Tottori prefecture, Japan. Arch. Orthop. Trauma Surg., 109, 43-44.
- 4) 藤森弘(1990) 胸郭異常をめぐって、新版 子どものからだは蝕まれている、ピオタ叢書2、柏樹社
- 5) 清野佳紀、田中弘之、西山宗六、井本岳秋、福永仁夫(1994) 日本人若年女性の最大骨量、医学のあゆみ、170, 12, 1041-1042